

自然災害時の電気

自然災害発生時には停電の可能性が高くなります。
皆さん一人ひとりが日頃から「自分の安全は自分で守る」心構えをしておくとともに、
さまざまなことに対して対策を考えておくことが大切です。

災害時における電気の対処



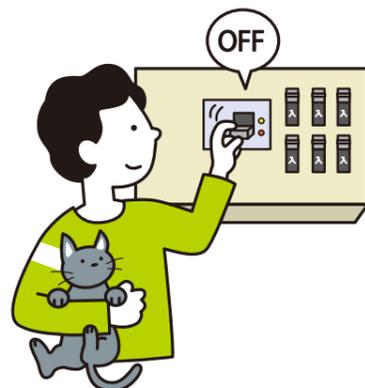
スイッチを切りプラグを抜く

特に火事の原因となりやすい
電気ストーブやアイロン、ドライヤーなどの電気製品は、
すぐにプラグをコンセントから抜くことを心がけましょう。



ブレーカーは 「切」にして避難

災害時に家の外へ避難するときは、
電気が原因で火災を起こさないように
ブレーカーを必ず「切」にしてから
避難してください。



ガス臭いときは スイッチに触らない

家の中でガスの臭いがしたときは、
電気のスイッチをつけると、
火花が飛んでガスに引火する
おそれがあるので、
絶対に触らず、使用しないでください。

水にぬれた電気製品は必ず点検

電気製品や配線類が浸水や漏水などで
水にぬれてしまったときは、漏電などの原因になるので、
必ず電気店などでしっかり点検してください。



屋外では電線に注意

災害で切れた電線には
触れないようご注意ください。
見つけたらすぐ関西電力送配電に連絡してください。

感震ブレーカー

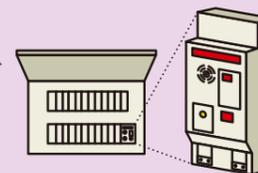
地震では、電気が主な火災発生原因の一つとなっています。
感震ブレーカーは、地震を感知すると
電気を自動的に止めます。
地震による電気火災を防止するためにも、感震ブレーカーの設置をおすすめします。

詳しくは
経済産業省・
内閣府の
ホームページを
ご覧ください。



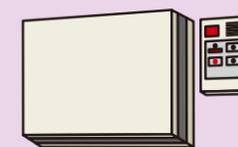
分電盤タイプ(内蔵型)

分電盤に内蔵された
センサーが揺れを感知し、
漏電ブレーカーを落として
電気を自動的に止めます。
電気工事が必要です。



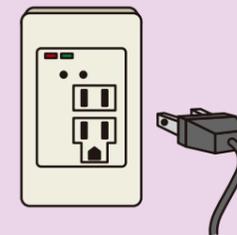
分電盤タイプ(後付型)

感震機能を外付けするタイプで、分電盤に内蔵された
センサーが揺れを感知し、
電気を自動的に止めます。
漏電ブレーカーが設置され
ている場合に設置可能で、電気工事が必要です。



コンセントタイプ

内蔵されたセンサーが
揺れを感知し、
電気を自動的に止めます。
工事が必要なタイプと、
コンセントに差し込むだけの
タイプがあります。



簡易タイプ

ばねの作動や
重りの落下により
ブレーカーを落として、
電気を止めます。
電気工事は不要で、
経済的ですが、
他のタイプとくらべると
信頼性が低くなります。

